

鹿児島県立鶴翔高等学校

地域を愛し 地域を守る 未来の人材育成プロジェクト phase one ～生徒の主体的な課題解決と学校・地域連携の模索～

1 学校の概要

本校は、鹿児島県北西部の阿久根市に位置し、阿久根市唯一の高等学校である。平成17年度に阿久根高等学校と阿久根農業高等学校、長島高等学校の3校を統合して新設され、今年度で20周年を迎えた。総合学科2クラス、農業科学科1クラス、食品技術科1クラスの1学年3学科4クラスの学校である。それぞれの学科は、特色を生かした教育活動に取り組んでいる。総合学科は、2学年への進級時にアカデミア系列、商業系の情報ビジネス系列、スポーツ健康科学系列、農業土木や造園の学習を行う環境緑地系列の中から選択する。多彩な学科と系列選択により生徒の進路先が多岐にわたるのも本校の特徴である。

平成31年には、阿久根市と地域産業の振興や地域人材育成、教育・文化・スポーツの振興・地域コミュニティの発展に関する事項で包括協定を結んでおり、海と山の幸の豊かな「食のまち」という地域の特性を生かした教育活動に取り組んでいる。また、地元の「スターゼンミートプロセッサ株式会社」と、令和2年に人材育成や学生支援で協定を結び、職場研修の受け入れや部活動への支援をいただいている。その他、市や企業等と様々な活動を行うことで地域連携を深めている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらいと目標

ア 地域の特色・課題

阿久根市は西に東シナ海、東は山に囲まれた自然豊かな町であり、食も豊かな町として「あくね、うまいね、自然だね」のキャッチフレーズのもと、多くの自然の食材を売り出している。古くから丸干しイワシなどの海産物やタケノコ、ソラマメなどの農産物も採れ、これらを生かした加工品も多数存在する。柑橘系のボンタンや紅甘夏の産地でもあり、ボンタンを活用した加工品は根強い人気がある。また、自然の景観を生かした観光名所も多数存在し、映画のロケ地としても活用されてきた。これまでに廃棄ウニやジビエなど未利用資源を活用した持続可能な農業の研究を実践してきているが、これらの未利用資源の活用を継続的にすすめていくことが課題である。阿久根市や周辺地域の人口減少が進む中、在学中に早期から地域産業への理解を深め、若年人口の流出を防ぎ地域産業の衰退を止めることも大きな課題である。

イ 事業の概要

今年度20周年の節目を迎え、新しい挑戦として、地域と連携を深め、郷土の自然や資源の豊かさを体験的に学び、地域を愛し守りたいという思いを抱く生徒を育てる活動を始めた。この活動は、次世代につなぐ取組の第1段階と位置づけている。『産業社会と人間・総合的な探究の時間』での活動を、総合学科と農業科を併せ持つ本校の特色を生かしながら、これまでの地域連携を進化・拡充させながら、地域の課題を主



3 事業の経過

日	内容	参加者
4 月		
14 日	地域・自分・学校に関するアンケート 実施	1・2 学年全員
18 日	産業社会と人間・総合的な探究オリエンテーション	1・2 学年，職員全員
5 月		
7 日	阿久根市長との懇談 (協力要請，計画案の話し合い等)	校長・担当職員 本校職員全員
15 日	産社・総学担当者会	校長・担当職員
16 日	肥薩おれんじ鉄道職員との懇談 (協力要請，計画案の話し合い等)	校長・担当職員
17 日	長島町長，長島町職員，社会教育課職員との懇談 (協力要請，計画案の話し合い等)	1・2 学年生徒
23 日	大学等出前講座 (鹿児島大学，鹿児島国際大学，第一工科大学，鹿児島純心大学)	1・2 学年生徒
6 月		
6 日	探究活動の仕方 オリエンテーション	1 学年生徒，職員
〃	3 学年 総合学科アカデミア系列生徒による獅子島活性化探究 成果発表	アカデミア系列 3 学年生徒，1・2 学年生徒，職員
13 日	探究活動の仕方 オリエンテーション	2 学年生徒，職員
〃	認定こども園あくね園園児との稲刈り体験	農業科作物班生徒
20 日	2 学年 長島町探索及び清掃活動	2 学年生徒，職員
〃	1 学年 地元の魅力講演会『協本海岸の魅力について』(協元海岸ウミガメシロチドリの会)	1 学年生徒，職員
26 日	レガーレ・ワキタ(長島町菓子店)との商品開発試食会，打ち合わせ等	情報ビジネス系列 2・3 学年生徒
27 日	曾於高等学校 探究活動担当者との懇談	担当職員
7 月		
4 日	2 学年 地元の魅力講演会『阿久根市の魅力と課題』(阿久根市地域振興課職員)	2 学年生徒，阿久根市企画調整課地域振興課
6 日	おれんじ鉄道における車内販売実習(地元企業と協力し商品開発したアイスやカレー等)	情報ビジネス系列 2・3 学年生徒，担当職員
10 日	阿久根市講演会(神奈川県鎌倉市と連携している企業サカナヤマルカマ)	食品技術科生徒，職員
〃	マキオドライビングスクールとの商品開発会議・販売実習報告等	情報ビジネス系列 2・3 学年生徒，担当職員
12 日	獅子島中学校訪問，懇談	校長・担当職員

12 日	阿久根市地域おこし協力隊『地域活性化』講話	食品技術科生徒
27 日	阿久根市 みどこい夏祭り 踊り連参加	1・2 学年有志生徒， 職員
//	ウニ殻活用探究チーム 企業との懇談① (阿久根市尾塚水産訪問)	1 学年探究グループ生徒 5 名，担当職員
8 月		
6 日	獅子島化石発掘体験参加	1・2 学年生徒 15 名， 担当職員
21 日	ウニ殻活用探究チーム 企業との懇談② 『ウニ殻活用の具体的方法案について』 (尾塚水産，農学博士 藤本 滋生 氏との実習)	1 学年探究グループ生徒 5 名，担当職員
22 日	スキルアップセミナー参加	1・2 学年生徒 5 名， 担当職員
9 月		
5 日～	文化祭における中間発表への取組開始	1・2 学年生徒，職員
12 日	飛翔塾 卒業生による講話	1・2 学年生徒，職員
21 日	上級学校企業見学会，地元企業等訪問	1・2 学年生徒，職員
10 月		
2 日	仕事説明会（阿久根市役所）	1・2 年公務員希望生徒
16 日	認定こども園あくね園園児との稲刈り体験実習，絵 本読み聞かせ	農業科学科 2・3 学年 生徒，職員
21～25 日	農業体験実習・インターンシップ	2 学年生徒
11 月		
8～9 日	文化祭における探究中間発表（ポスター発表）	1・2 学年生徒
9 日	ウニ殻小物作り体験ブース実習	1 学年探究グループ生徒 5 名，担当職員
13 日	獅子島中学校とオンライン交流打ち合わせ	獅子島中学校職員
21 日	プレゼンテーション講座	1 学年生徒，職員
//	探究の実践について オリエンテーション	2 学年生徒，職員
22 日	ウニ殻活用探究チーム 企業との懇談③ 『ウニ殻とボンタンを融合した商品開発について』 (尾塚水産，泰平食品，農学博士 藤本 滋生 氏)	1 学年探究グループ生徒 5 名，担当職員
12 月		
9 日	マキオドライビングスクールとの商品開発・試食会 (恐竜カレー 第 2 弾)	情報ビジネス系列 2・ 3 学年生徒，担当職員
10 日	ウニ殻活用探究チーム 企業との懇談④ 『SDGs みらい甲子園鹿児島大会への応募に向けて』 (尾塚水産，泰平食品，農学博士 藤本 滋生 氏)	1 学年探究グループ生徒 5 名，担当職員
//	肥薩おれんじ鉄道との懇談（放送部による活性化ド	放送部生徒，担当職員

11 日	キュメントビデオ制作について) ウニ殻活用探究チーム 企業との懇談⑤『ウニ殻と ボンタン皮を活用した入浴剤等の商品開発につい て』（尾塚水産，泰平食品，農学博士 藤本 滋生 氏）	1 学年探究グループ生 徒 5 名，担当職員
20 日	宮崎県立本庄高等学校 探究発表会・学校訪問	担当職員
1 月		
9 日	探究活動のまとめ・発表方法オリエンテーション	1・2 学年生徒，職員
14 日	ウニ殻活用探究チーム	1 学年探究グループ生 徒 5 名，担当職員
	阿久根ロータリークラブ会合での探究発表	
16 日	獅子島中学校とのオンライン交流・探究発表	情報ビジネス系列 3 学 年 6 名，アカデミア系 列 2 学年 11 名
	『獅子島恐竜カレー商品開発について』	
	『獅子島活性化探究～ゆるきゃら開発と活用～』	
//	地域活性化に関する講話『地域食材に光りをあてた 商品開発で地域活性化』（株式会社 NEVER LAND 加 世堂 洋平氏，田知行 義仁 氏）	1・2 学年生徒，職員
25 日	肥薩おれんじ鉄道職員協力のもとドキュメントビデ オ撮影① 【阿久根～上川内～川内駅 沿線等】	放送部生徒，担当職員
28 日	ウニ殻活用探究チーム SDGs みらい甲子園鹿児島大 会第一次選考通過 最終選考へ向けてビデオ撮影等	1 学年探究グループ生 徒 5 名，担当職員
2 月（予定）		
2 日	獅子島ウォーク参加	アカデミア系列生徒 5 名，関係職員
	長島町関係者への活性化に関するインタビュー	
22 日	肥薩おれんじ鉄道職員協力のもとドキュメントビデ オ撮影② 【水俣駅～佐敷駅～八代駅 沿線等】	放送部生徒，担当職員
27 日	探究学年発表会（全体発表グループ選抜）	1・2 学年生徒，職員
3 月（予定）		
19 日	探究全体発表会（学年発表会で選抜したグループの 発表）	1・2 学年生徒，職 員，保護者，企業，関 係諸機関等

4 事業の実際

(1) 1 学年

ア グループ別探究【阿久根市活性化探究】

総合学科 51 名，農業科学科 16 名，食品科学科 12 名
を 16 グループに分け，各グループに 1 名の職員をチ
ューター（助言指導役）として配置した。1 年間を通

して，「阿久根市の活性化」についてグループで 1 つ
のテーマを決め，「活性化させるために」，「どんな資源を」，「どんな方法で活用する
か」に焦点を当てて，【アイディア→実行→検証→まとめ】を目指した（図 1）。



図 1 グループ活動の様子

イ 活性化に関する講話等

年間を通して、阿久根市の魅力や課題を知り、地元愛を育むことや職業選択の幅を広げることを狙いとした講話等を実施した。

(ア) 大学等出前講座（１・２学年合同）（図２）

５月２３日、４大学から６名の講師を招き、「台所は実験室！おうちご飯のおいしい科学的ワザを知ろう！」、「精密農業のためのスマート農地」等を題目に６講座に分かれて出前講座を実施。例年より招く大学を増やし、講座内容も地域や食に関するものに設定した。



図２ 鹿児島大学教授による講座

(イ) 地元の魅力講演会『脇本海岸の魅力について』（脇元海岸ウミガメシロチドリの会）

６月２０日、阿久根市脇本海岸及び周辺の豊かな自然を守るとともに地域の産業発展の調和をテーマに、阿久根県立自然公園としての脇本海岸の美しさを後生に残したいという思いの伝わる講話だった（図３）。「阿久根の海に４種類も絶滅危惧種が生息していると初めて知った」といった感想があり、生徒にとって「自然保護と町の発展」を考える活性化探究に良い刺激となった。



図３ 絶滅危惧種の亀の紹介

(ウ) 飛翔塾 卒業生による講話

９月１２日、地元就職した卒業生を中心に招き、講話を実施（図４）。全体への講話の後、グループに分かれ、卒業生と対話形式で進路選択へのアドバイスや働く中での経験等を聞き、質疑を通じて語り合った。「高校時代にどんなことを学んでいたら良いか」、「働く中での喜びと苦労は何か」などの質問があがった。



図４ 対話形式での職業講座

(エ) プレゼンテーション講座

１１月２１日、効果的な発表の仕方について学ぶとともに、自己をＰＲする方法を身に付け、将来の進路実現に役立てるため麻生専門学校講師による講座を実施。プレゼン資料の見せ方だけでなく、相手に「何を伝えたいか」を考えた発表の工夫等を学んだ（図５）。



図５ 「伝え方」を学ぶ講座

ウ 地域の方と協働し、発展的な探究にすすんだグループの探究

1 学年 16 グループの中で、チーム名「やきとり」の5名は、「阿久根の海の保護、ウニの活用」をテーマに探究する中で、阿久根市の尾塚水産の尾塚エイ子さんと出会い、探究にご協力いただけることとなった。尾塚さんは、農学博士の藤本氏を研究顧問とし、環境変化により駆除されるようになってしまった食べられないウニをウニ殻アートとして小物に作り替えたり、含まれるカルシウムを生かしサプリメントや石けんに加工したり、ウニの色素で染めたストールを作成されたりするなど、ウニ殻活用の挑戦を 20 年来行ってきた方である（図6）。探究途中ではあるが、12 月までに探究したことをまとめ、『SDGs 未来甲子園鹿児島大会』に応募し、1 次選考通過（1 月 17 日時点）し、最終選考発表（3 月 8 日）への準備を始めている。地元の自然資源であり活用できる資源である「廃棄ウニ殻と廃棄ボンタン皮」の新たな利活用方法として継続的に発展させることを期待したい。



図6 藤本氏制作のウニ殻アート

(ア) ウニ殻活用の探究①（図7）

7 月 27 日、尾塚さんと藤本先生からウニ殻活用の経緯やウニ殻の特徴、今後の活動の方向性などを聞いた。また、探究の内容を相談し、方向性のアドバイスをいただいた。ウニ殻アートのクオリティの高さに驚かされウニ殻の可能性を学んだ。



図7 ウニ殻活用の探究①

(イ) ウニ殻活用の探究②（図8）

8 月 21 日、尾塚さんと藤本先生からウニ殻アート作りを学んだ。その中で、まずはこのような活用方法を様々な人へ伝えたいという方向性を決め、本校文化祭にて「小物作り体験ブース」を出すことに決めアイデアを練った。



図8 ウニ殻活用の探究②

(ウ) ウニ殻活用の探究③（図9）

11 月 9 日、文化祭（飛翔祭）において、ウニ殻小物作り体験ブースを開催。小学生から年配の方まで多くの方が足を止め、体験していただいた。探究内容のポスター掲示やパンフレットも配布し、校内外の方々へ活動の周知に努めた。



図9 ウニ殻活用の探究③

(エ) ウニ殻活用の探究④（図10）

11 月 22 日、文化祭での体験を生かし、新たな案として「ウニ殻と阿久根の特産ボンタンを融合させた商品開発」を検討し始めた。尾塚水産に提案し、ボンタン加工業者泰平食品の下園さんと懇談。企画案を説明し、ご協力がいただけることになり新たな計画をスタートさせた。



図10 ウニ殻活用の探究④

(オ) ウニ殻活用の探究⑤・⑥ (図11・12)

12月10日、探究内容をまとめSDGs未来甲子園に応募。また、11日、尾塚水産にて藤本先生より「ボンタン皮(図12)や抽出液の性質等」を学び、廃棄されるものを利活用することと活性化を目指す「ウニ殻とボンタンの入浴剤」を製品開発していくことになった。



図11 ウニ殻活用の探究⑤



図12 ウニ殻活用の探究⑥

(カ) ウニ殻活用の探究⑦ (図13)

令和7年1月11日、尾塚水産、藤本先生、泰平食品の方と「ウニ殻粉末とボンタン皮粉末の入浴剤」の試作をした。配合を数パターン用意し、さらにオレンジオイルを配合するなどして、それぞれの香りの強さや持続性を試した。実現には様々な課題もあり、改善策を話し合った。



図13 ウニ殻活用の探究⑦

(キ) ウニ殻活用の探究⑧ (図14)

令和7年1月14日、阿久根市ロータリークラブの会合で探究内容を発表。阿久根市の様々な企業の方々に直接、地域活性化について探究内容を発表できたことで、生徒も手ごたえを感じたようである。発表後、多くの方から探究についてアドバイスや応援の声があった。



図14 ウニ殻活用の探究⑧

(2) 2学年

ア 長島町活性化探究 (図15)

総合学科45名、農業科学科12名、食品科学科17名を16グループに分け、各グループに1名の職員をチューターとして配置した。「長島町の活性化」についてグループで1つのテーマを決め、「活性化させるために」、「どんな資源を」、「どんな方法で活用するか」に焦点を当てて、【アイデア→実行→検証→まとめ】を目指した。



図15 文化祭でのポスター発表(1・2年合同)

イ 活性化に関する講話や地域での就業体験等

2学年は、総合的な探究の時間を活用し、探究活動をスタートしたが、探究活動に慣れていないことと、総合的な探究の時間が週1時間であること、さらに2学期にインターンシップも計画されているために1学年よりも内容精選が必要となった。

(7) 長島町探索及び清掃活動等

2 学年生徒の約16%が長島町から通学しているが、その他の生徒で長島町に行ったことがないという生徒が多かった。探究活動を始めるにあたり、身近な地域を知ることと、「探究」活動をさらに実りあるものにするために、6月20日、2 学年生徒全員で長島町を訪問した。折しも今年度は阿久根市との間に架けられた黒の瀬戸大橋の50周年であり、長島町役場の方に「黒の瀬戸大橋50年の歴史」や「町の魅力」を話していただきながら、港や景勝地を巡った(図16)。また、長年、町の行政に携わり、現在は歴史民俗資料館の職員をされている方から「長島町の歴史と自然資源や特産」についての講話をしていただいた。生徒たちは「長島町のこれまでの自然資源活用方法」や「食に関する魅力の伝え方の工夫」について質疑を行い、予定していた講話の時間を延長して応じていただいた。



図16 黒之瀬戸大橋に関する歴史の講話

(イ) マナー講座(キャリアガイダンス), インターンシップ

10月9日、キャッチワークかごしまの方より『マナー講座』及び『働くとは』という講座をしていただいた。何のために働くのか、社会で求められる力、そして働く上でのマナーなど、10月21日～25日に地域での農業体験(図17)やインターンシップを控えた生徒たちは真剣な眼差しで聴講した。「自分をみつめ、社会で自己実現をしながら働くことをイメージできた」といった感想が聞かれた。



図17 地域での農業体験実習

(ウ) 地域活性化に関する講話『地域食材に光りをあてた商品開発で地域活性化』

(1・2学年 合同)

令和7年1月16日、長島出身で鹿児島や東京で飲食店経営をしている株式会社 NEVER LAND の加世堂氏と商品開発マネージャーの方から地域活性化に関する講話をしていただいた(図18)。また地方生まれながら、都市部で夢を叶えた経験を通して「夢を叶えるにはできることを積み重ねること」といった夢を叶えるための情熱や心構えを語っていただいた。「地域の資源を活用し、食で社会を元気にしたいという思いに感動した」、「私も夢を叶えるために日頃からできることをやっていきたい」といった感想が見られた。



図18 地域活性化に関する講話

(3) 系列別での取組

学年別での取組や、1・2学年合同の取組とは別に、授業や放課後等を活用し、総合学科の各系列（アカデミアや情報ビジネス）や農業科での取組も実施した。

ア 農業科作物班生徒の取組

農業科では、「食のまち阿久根」の地理的利点を生かして、地元企業等と協力しながら教育実践を行っている。さらに、地域の保育園児との交流も田植えや稲刈りを通して毎年行っている。加えて、子供たちへ食の大切さや農業についてわかりやすくまとめた手作りの絵本の読み聞かせを通して交流を深めている（図19・20）。



図19 手作り絵本で読み聞かせ



図20 園児と稲刈り実習

イ 総合学科 情報ビジネス系列2・3学年生徒の取組

(ア) マキオドライビングスクールとの獅子島活性化『恐竜カレー』商品開発

昨年度の3年生が開発販売したレトルトカレーの第2弾として、長島町獅子島の恐竜をイメージした「シン恐竜カレー」の考案開発を行った。今回は空を飛ぶ翼竜に着想を得て手羽肉を加えた。情報ビジネス系列の3年生と、学校近くで教習生に振る舞うカレーが人気のマキオドライビングスクールとの共同開発。生徒が提案した黒糖や長島産焼酎などの地域食材を加えた。年度内の販売に向け準備中である（図21・22）。



図21 恐竜カレー第1弾・第2弾



図22 手作り商品開発PR用ポスター

(イ) レガーレ・ワキタ(長島町の菓子店)との長島特産品商品開発

レガーレ・ワキタと町特産の島ミカンとジャガイモを使った冷菓を開発。長島ゆかりの商品を作ろうと商品の企画を練り、ネーミングの検討や試食を重ね、アイスバーとシューアイスが完成。島ミカンとジャガイモの2種類あり、島ミカンは独特のさわやかな香り、ジャガイモはしゃりしゃりとした食感を感じられる。おれんじ鉄道での車内販売や、よかど鹿児島（鹿児島市）での販売実習を行い、地域の方々や観光客に長島の魅力を発信した（図23）。



図23 駅での販売実習

ウ 総合学科 アカデミア系列 2・3 学年生徒の取組

(ア) 「獅子島活性化」探究

6月6日に、これから探究活動を始める1・2学年生徒に、昨年度、獅子島を訪れ、恐竜の化石関連を中心とした獅子島活性化探究をしてきたアカデミア系列3学年生徒より発表があった(図24)。2学年のアカデミア系列生徒が探究内容を引き継ぎ、より発展的な内容にしているために探究を始めた。学年で行う探究は、グループ別に週1回の総合的な探究の時間に取り組み、アカデミア系列の11名の生徒は、放課後等を利用し、獅子島探究にも取り組んだ。



図24 3年生による発表

(イ) 獅子島化石発掘体験

探究を進める中で、「探究のテーマである獅子島を実際に訪問したい」という思いが生まれ、長島町主催の『獅子島化石発掘体験』に参加させていただいた(図25)。実際に島を巡り、化石発掘を体験するだけでなく、化石や探究のヒントについて、鹿児島大学の学生さんや東京都市大学の中島准教授、そして獅子島の化石発見をされ「サツマウツノミヤリュウ」の由来となった化石採集家の宇都宮さんからも御指導・御助言をいただいた。図25 獅子島化石発掘体験



学んだ事をもとに、8月から新たな視点で探究を始めた。

(ウ) 獅子島中学校とのオンライン交流

8月からは、獅子島訪問の際に看板がほとんどまったくないことや、島内では恐竜化石をPRするような取組がなかったことを参考に、獅子島の「ゆるきゃらを独自に考案し、PRや商品開発につなげ、島内外の人々に魅力発信をする」という目標を立てて探究をすすめた。その途中成果を11月の本校文化祭にてポスター発表をした。その後の探究活動の中で、「生み出したゆるきゃらを獅子島中学校の生徒に紹介し、一緒に名前や活用方法を考えたい」という生徒の要望があがり、獅子島中学校とオンラインによる交流をすることとなった。令和7年1月16日にGoogle Meetにより、情報ビジネス系列生徒による「恐竜カレーやその他の長島特産の商品開発の紹介」のプレゼンとともに、アカデミア生徒11名で「獅子島活性化プロジェクト」をプレゼン発表した。初めてのオンラインを通しての発表(図26)と中学生との遠隔の交流に緊張し



図26 考案したゆるきゃらを紹介

ながらも探究の成果を堂々と発表した（図27）。中学生からは、「獅子島を探究テーマに選んで、ゆるきやらまで作ってもらってうれしいです」や「いろいろなアイデアを聞いて、自分たちも活性化について考えるきっかけになった」といった感想をもらった。アカデミア系列では、現在の2学年が次の2学年にこの探究内容を引き継げるように、今回の交流を生かしてさらに探究を具体化したいと考えている。そのためにも2月2日に行われる『獅子島ウォーク』に有志5名で参加し、13キロを歩く中で、新しい探究の視点をつかみ活性化につなげたいと期待している。



図 27 画面越しに笑顔で交流

(4) その他 部活動や有志の生徒の活動

ア 有志の生徒の活動

例年、地元阿久根市で開催される『阿久根市みどこい夏祭り』の踊り連に今年度は有志の生徒30名と職員16名、OBやPTA10名の56名で参加した。地域の方々と交流しながら、一緒に歩行者天国となった町を踊り歩き、祭りを盛り上げた（図28）。



図 28 約2時間 町を踊り歩く生徒

イ 放送部生徒による『おれんじ鉄道活性化』の取組

本校の約2割の生徒がおれんじ鉄道を利用して登校している。しかし、近年利用者数の減少や運転手不足等の要因で減便や存続が危ぶまれている。そのような状況を少しでも変えるきっかけになりたいと、本校放送部生徒がおれんじ鉄道の方に『活性化を目指せるような映像作品を作りたい』と協力を要請し、打ち合わせや企画会議を重ね、撮影に協力をいただけることとなった。令和7年1月から取り組むが、利用者だけでなく沿線に住む方々や駅員の方にも「おれんじ鉄道の魅力や活性化のアイデア」を取材し、作品に表現し、人々に伝えたいと考えている。

5 事業の成果とその評価

(1) 課題解決の状況

今年度、本プロジェクトにて、「地域を愛し、地域を守る、未来の人材育成プロジェクト phase one～生徒の主体的な課題解決と学校・地域連携の模索～」と銘打って探究活動を始動させた。「Phase one」＝「第1段階」という文言には、創立20周年を新たなスタートとし、本校が育成したい人材をこれからの教育活動で、さらに深化させて育成していきたいという願いを込めている。昨年度までは、1・2学年においては、調べ学習を中心に「産業社会と人間・総合的な探究」の時間に取り組んできた。今年度は、年間計画と実施内容を大きく見直し、今回のプロジェクトに掲げた目標をもとに、講話や探究活動などを行ってきた。課題解決の状況は、次項の(2)評価にあげるアンケート結果や感想等にも表れているが、地域への興味関心や魅力・課題への知識は目に見える

変化がある。しかし、そのような知識が「地元の人材として将来、地域に住み、働きたい」という意欲までには及んでいないと感じる。しかし、何よりも生徒たちが、地域のことについて「自分事」として捉えるようになってきたことが、課題解決につながっていくと感じている。

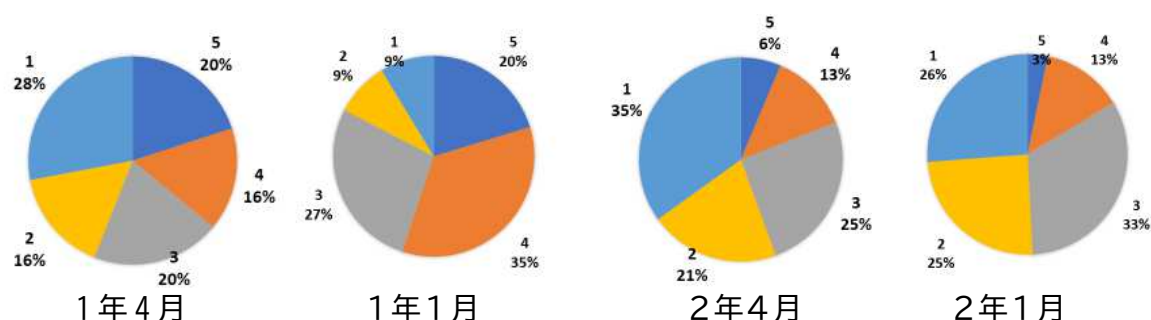
(2) 評価

本事業における活動を始める前4月14日に1・2学年生徒全員に、【ア 地域に関する知識や活性化について イ 今の自分や将来について ウ 本校と地域の関わりについて】といった点からアンケートを行った。その後、1・2学期の学校生活や諸活動、本事業等を通した変容を見るために、まったく同じ内容のアンケートを1月14日に行った。その結果をア～ウの項目別にまとめる。

【アンケート5（知っている、興味がある等）、1（知らない、興味が無い）】

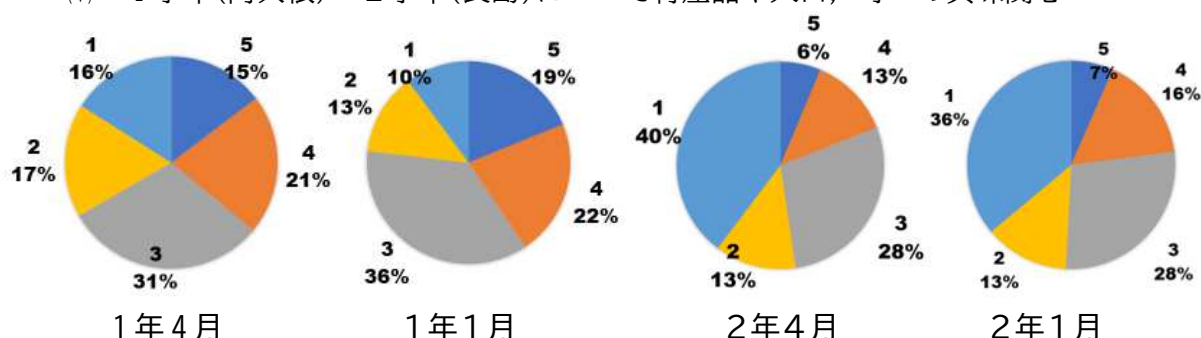
ア 地域に関する知識や活性化について

(ア) 1学年(阿久根)・2学年(長島)について特産品や人口、町についての知識



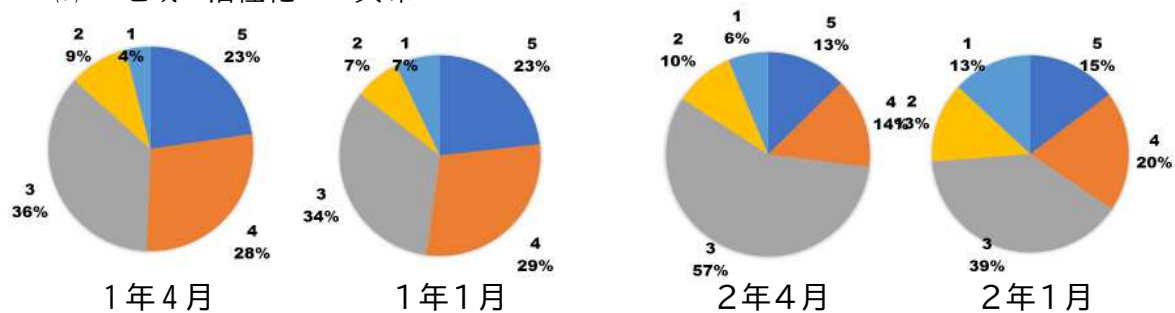
- ・ 1年生は、5・4の合計が36%→55%となり、知識が大幅に増えた。
- ・ 2年生は、5・4は若干減ってしまった。これは、自分の知っている知識に疑問を持ち、探究をすすめてくれたのかもしれないが、やや残念な結果である。

(イ) 1学年(阿久根)・2学年(長島)について特産品や人口、町への興味関心



- ・ 1年生は、5・4の合計が36%→41%となり、1・2も減った。興味関心が高まったと言える。
- ・ 2年生は、5・4の合計が19%→23%と微増した。阿久根市と違って長島は訪れる機会が少ないため、興味関心が高まることにつながりにくかったようだ。

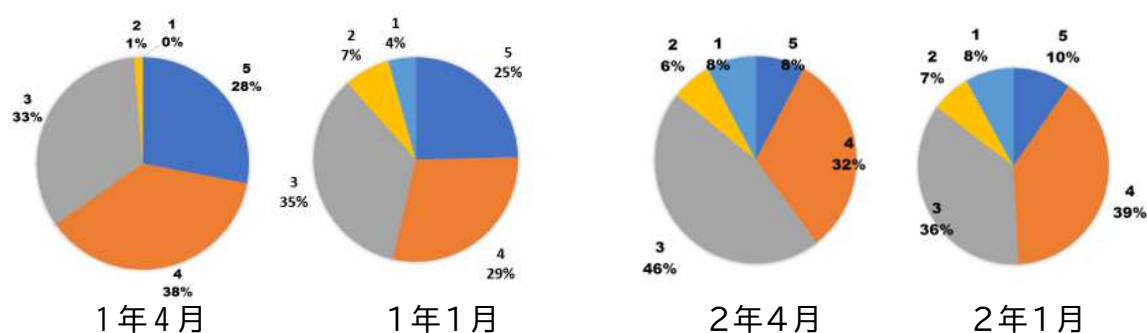
(ウ) 地域の活性化への興味



1年生も2年生も、ほぼ変動しなかった。(ア)、(イ)からわかるように、興味関心等は高まったが、そのことが「活性化への興味」につながりにくかったようだ。しかし、1年生では、5・4を半数以上が選んでおり、全体としての興味関心は高い。2年生では5 + 4の合計が27%→35%と変化が有り、今後に期待したい。

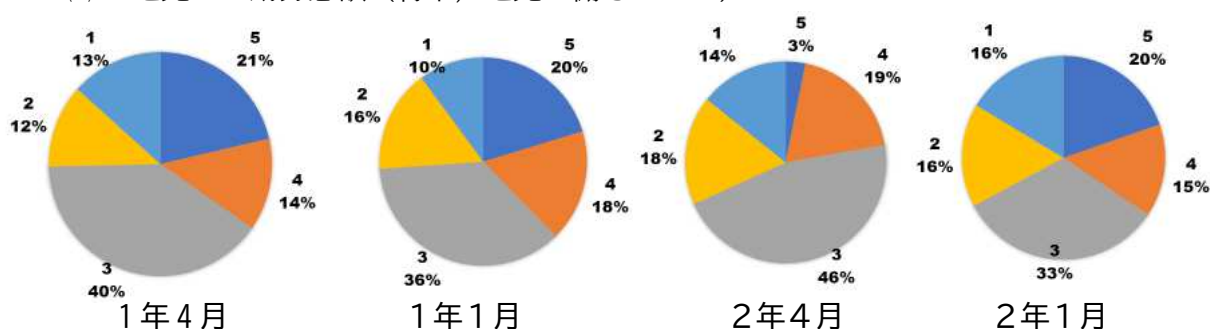
イ 今の自分や将来について

(ア) 今の自分の意欲



- ・ 1年生は、1・2の合計が1%→11%と意欲が落ちた生徒が増え、とても心配な結果となった。中学校と高校の違いや学習の難易度の違いなど複数の要因が考えられる。今後の教育活動全体で原因を発見し、意欲を上げていく必要がある。
- ・ 2年生では、5・4の合計が40%→59%と増えた。学校生活に慣れ、それぞれのやりがいを見つけているようだ。しかし、1～3を半数が選んでいることから、迷いや悩みがあるためか意欲が低い生徒もあり、様々な点から支援が必要だと考える。

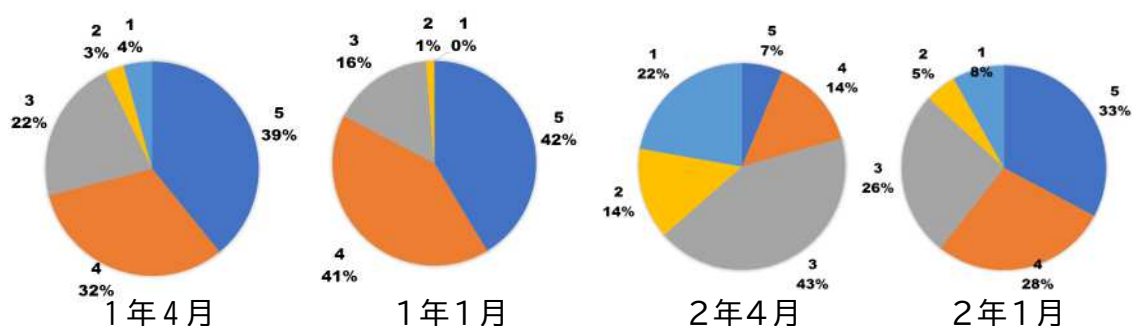
(イ) 地元での勤労意欲（将来、地元で働きたいか）



- ・ 1年生は、5・4の合計が35%→38%と微増である。本校の総合学科は1年次に4系列を選択する。そのような決断が必要な中、まずはどのような職業に就きたいのか、どの系列に行くべきかを考える必要があり、「どこで働きたいか」まで及んでいないと推察する。今後の教育活動や探究活動でより郷土愛を育みたい。
- ・ 2年生は、5・4の合計が22%→35%と増加した。来年度の進路選択を控え、インターンシップや講話等からより具体的に自分の生き方を考え始めたと推察できる。

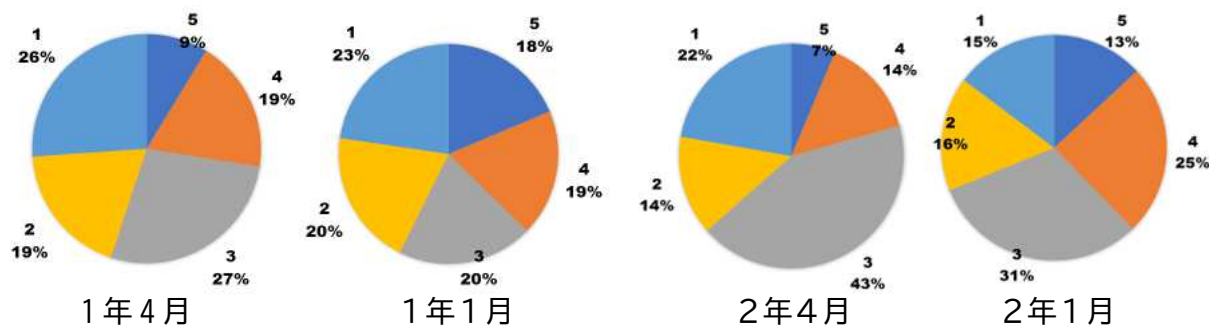
ウ 本校と地域の関わりについて

(ア) 本校の特色について（鶴翔高校は特色のある学校であるか）



- ・ 1年生は、5・4の合計が71%→83%と増えた。全体的にも高い数値で、行事や探究活動、部活動や講演会等で学校の特色を感じてくれているようだ。
- ・ 2年生は、5・4の合計が21%→61%と大幅に増加した。系列に分かれ、それぞれ特色ある授業等を受けたことや、昨年度行っていない探究活動等から刺激を受けてくれたと推察する。今後のさらなる意識変容に期待したい。

(イ) 本校と地域の連携について（鶴翔高校と地域は連携できているか）



- ・ 1年生は、5・4の合計が28%→37%と増えた。徐々に行事や講演会、地域との関わりの中で学校と地域連携を知ってくれたようである。
- ・ 2年生は、5・4の合計が21%→38%と増加した。系列別での行事で1年生の時よりも地域の方々と接する機会が増え、また学校との連携の意味合いも分かってきてくれたのではと推察する。

6 今後の課題

昨年度までは、探究的な活動がほとんど実施されていなかった『産業社会と人間・総合的な探究の時間』を見直し、さらに、郷土教育推進事業に取り組んだことで、充実したフィールドワークや講演会等を実施できたと考える。また、アンケートや生徒の感想等から見えるように、地域をよく知り、地域と関わることは、生徒の内面の変容につながる。その一方で、やる気や自己実現方法を見いだせず、進路選択に迷いのある生徒も多いことを見逃してはならないと改めて発見できた。多様なニーズを持った生徒が通う本校において、多角的な視点から計画した活動の場や交流の場を生徒に提供し、経験を積ませることが、地域を愛し、地域の担い手となって社会で自己実現したいという熱意ある人材を育成できる方法であると考えている。

今年度の事業を進める中で、昨年度に引き続き協力を要請し快諾していただいた企業等も多い。しかし、協働予定であったが時期の都合がつかず、協働できなかった関係諸機関等もあり、来年度は練り直して協力いただけるように計画したい。いくつかの企業等は、新しく学校側から協力をお願いし、共に挑戦を始めていただき、つながりを作ることができたことは大きな収穫であった。その中のある企業の方からは、「高校生と地域課題を考え、発信していけるのは喜びです。」とっていただいた。このような地域連携を単年度で終わらせるのではなく、継続的に取り組み、また内容の充実を図ることが必要である。今後の取組としては、インターンシップや諸講話等で関わりのできた企業・事業所に「鶴翔高校の生徒とともにやってみたい企画」、「企業側から提供できる実践」などを聞き取り、企業側からの積極的な関わりも求めている。

最後に、このような探究活動で最大限に効果を生むには、職員ができるだけ同じ温度で共通理解に努め、生徒とともに「楽しんで探究」していくことが必要だと感じる。課題点は多いが、新しい挑戦の第1段階として、次につなげたい多くの発見があったと考える。

7 協働先一覧

No.	協働先	所在地	主な内容
(1)	阿久根市役所	阿久根市	・講演会への講師派遣 ・学校教育全般への協力 ・商品開発等への支援
(2)	長島町役場、長島町教育委員会	長島町	・講演会への講師派遣 ・学校教育全般への協力 ・商品開発等への支援
(3)	認定こども園あくね園	阿久根市	・地域協働への協力
(4)	長島町立獅子島中学校	長島町	・課題研究への協力
(5)	東京都市大学 中島 准教授	東京都	・課題研究への指導・助言
(6)	肥薩おれんじ鉄道株式会社	八代市	・商品開発等への支援 ・課題研究への協力
(7)	阿久根市地域おこし協力隊	阿久根市	・地域協働への協力

(8)	阿久根ロータリークラブ	阿久根市	・ 地域協働への協力
(9)	マキオドライビングスクール	阿久根市	・ 商品開発等への支援 ・ 地域協働への協力
(10)	レガーレ・ワキタ	長島町	・ 商品開発等への支援 ・ 地域協働への協力
(11)	有限会社 尾塚水産 尾塚 エイ子 氏	阿久根市	・ 生徒との共同研究 ・ 地域協働への協力
(12)	農学博士 藤本 滋生 氏	鹿児島市	・ 生徒との共同研究 ・ 地域協働への協力
(13)	サカナヤマルカマ	神奈川県	・ 講演会への講師派遣
(14)	脇元海岸ウミガメシロチドリの会	阿久根市	・ 講演会への講師派遣
(15)	泰平食品（有） 下藺 大樹 氏	阿久根市	・ 生徒との共同研究 ・ 地域協働への協力
(16)	株式会社 NEVER LAND 加世堂 洋平 氏	鹿児島市	・ 講演会への講師派遣
(17)	大阪市立自然史博物館 外来研究員 宇都宮 聡 氏	大阪府	・ 課題研究への指導・助 言